

2012年4月21日 共同通信記事より

保安院、議事録未作成なのに記者会見記録は詳細と21日判明

経済産業省原子力安全・保安院が、東京電力福島第1原発事故に関する記者会見について、事故直後の昨年3月13日から10月までに約2000ページの詳細な記録を作っていた。記者会見の記録は、共同通信の情報公開請求に対し、保安院が開示した。



原子力安全・保安院の記者会見記録をとじたファイル (共同通信)

記者名や所属も記載していたが、公開文書では黒塗りにされている。担当者は「記者会見を見られない職員もあり、内部資料として作成した。原子力安全委員会に提供したほか、関係省庁とも情報共有した」と説明している。

当初は混乱していたとみられ、原子炉の状態や住民避難の説明や質疑を簡単に記載。「確認中」「Yes (イエス)」「不明」などの短い回答のほか「メモ追いつかず」との記載もある。その後は徐々に詳しくなり、重要な部分は目立たせるよう強調している。

昨年10月以降も記録は続けている。

保安院は、事故対応に関する政府の方針を決める「原子力災害対策本部」の事務局を務めていたが、会合の議事録を作成していなかったため問題化。職員のメモなどを基に「議事概要」を作成、3月9日に公表した。政府の正式な意思決定会合の記録を残さない一方、記者会見の記録に精力を注ぐことはぐな対応に疑問。